

1 審議会等の名称	令和6年度 第1回三重県観光審議会
2 開催年月日	令和6年7月9日(火)
3 委員	【会長】埼玉大学 教授 石阪督規 ほか6名出席 計7名
4 諮問事項	三重県観光振興基本計画(令和6年度から令和8年度)に基づく令和7年度アクションプラン(案)の策定に向けた検討についての審議、新たな財源となる宿泊税の検討についての審議等
5 審議概要	<p>委員からの主なご意見は、以下のとおりです。</p> <p>&lt;外国人延べ宿泊者数に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢神宮だけではなく、外国人に三重県の何をPRしていくのがよいのか考えないといけない。</li> <li>・インバウンドは、ターゲットによって全然変わってくるので、ターゲットをしっかりと定めていく必要がある。超富裕層を狙っていくのもありではないか。</li> <li>・中部国際空港における国際便の戻りが遅いのが原因ではないか。中部国際空港等と組んで何ができるのかが重要。</li> <li>・9年後、遷宮に向けてはインバウンドにも参加してほしいと思っている。遷宮を海外の人にぜひPRしてほしい。</li> <li>・今年5月にゴルフ目的のインバウンドがタイから100人来た。来年度はさらに増える見込みである。</li> </ul> <p>&lt;日本人延べ宿泊者数に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年からいよいよ遷宮に向けての山口祭が行われる。来年には万博もあることから遷宮に向けたPRをスタートしてほしい。</li> <li>・友人が、「テレビでVISONが紹介されているのを見ていきたくなった」、「ドラマの撮影地に行きたい」と言っていた。SNSもいいが、テレビをもっと活用してもいいのでは。</li> <li>・修学旅行で一度訪れた人が、また来たくくなるような、面白い・新しいことをしっかり見える化して伝えることが重要。</li> <li>・誘客については、各地域が同じ課題に直面している。コンテンツ造成、宿泊施設の改修、ナイトタイムコンテンツの開発、メディアの活用が重要。</li> </ul> <p>&lt;新たな財源となる宿泊税の検討に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県が徴収する場合、宿泊者が多い地域と宿泊者が少ない地域の差が大きいことが想定される。他県では県の導入に対し反対の声も出ており、市町の理解を得るためには、使途用途を明確にし、丁寧に説明することが必要と考える。</li> <li>・県として市町が宿泊税を導入する際にその支援をする役割を担うのも一つである。</li> <li>・何のために税をとるのか、目的、使途の整理が大事。市が徴収</li> </ul>

する方が賛同を得られやすいかもしれない。

- ・伊勢・鳥羽・志摩では3市が先行して検討している。
- ・県税として徴収する場合、宿泊した地域に還元されなければ反発も出てくるのではないか。
- ・宿泊事業者が徴収する手間も考慮すべき。地元にとりだけ還元できるのか、納得できる丁寧な説明をお願いしたい。
- ・市町と県の双方が徴収することが合理的でないということではない。県で徴収した場合、宿泊客が少ない地域にも還元されバランスが取れるという考え方もある。
- ・観光客による外部不経済の事実も考慮すると、旅行者に受益があれば一定の税負担を求めることはある。受益と負担の関係を明確にすべき。
- ・課税客体から離れるほどわかりにくくなるので、近接性の観点からも市町レベルでの徴収が基本。